

三ヶ島葎子・令和の百首選「みんなで選ぼう 葎子の歌」短歌リスト

- ① 山越えて友をたづぬる初春の真昼の空に富士あらはれぬ
- ② いつまでももの学びたきに卒業の日は近づきぬ三月きたりて
- ③ 引越の荷物いだして部屋ひろし本棚のあと畳に残る
- ④ みかへればいつしか叔父の家見えぬ雲雀のこゑの空に聞ゆる
- ⑤ わが庭の桜は夜目にほの白し訪ひこし友を送りいづれば
- ⑥ はなむけに友がくれしはわがつねにほしと言ひける海老色りぼん
- ⑦ 亀井戸の藤の花見にゆく人の赤き傘見ゆ畑の向ひに
- ⑧ 藤の花咲くべくなりぬ見あぐれば藤棚こめて煙るむらさき
- ⑨ 田の面ふく潮風つよし蓮の広葉みな裏がへり紅き花なびく
- ⑩ タやけの空すでに暗しひらひらと頭の上を蝙蝠(こうもり)の飛ぶ
- ⑪ いつまでも水浴びやめず弟はくちびるの色むらさきなるに
- ⑫ 夕立の雨なごりなく晴れわたり星のすがしき夜ぞらとなれり
- ⑬ 誰が住みし家の屋敷の跡ならん人たがやさず白百合の咲く
- ⑭ 咲きわたむ白百合の花さやりけん花粉つきたり白地の袖にそで
- ⑮ 盆の夜かすかに笛の音は聞え亡き母のことをわれは思へり
- ⑯ 明日の朝幾つ咲くべき朝顔の蕾ふくらみ夕となりぬ
- ⑰ ふるさとの家のめぐりはいちめんの虫のこゑなり今宵かへれば
- ⑱ わが叔母が機おる軒に枝たれて柿の実赤く色づきにけり
- ⑲ わが庭に庚申(こうしん)ばらの花ひとつ開きて秋の空は曇りぬ
- ⑳ 秋風は空より吹きて心地よし散りしける柿の落葉の紅み
- ㉑ 空はれて遠き山見ゆ秋風に吹かれつつゆく友とわれかな
- ㉒ 色づきし森の梢を声もなくはなれてゆきし一羽の鳥
- ㉓ 雪ふれば何かうれしくおのづから足ぶみをして唱歌をうたふ
- ㉔ うす紅の山茶花咲けり始業時間おそくなりたる学校の庭に
- ㉕ やや遠き我をいたはりわかれ路に立ちつつ友は涙ぐみをりき
- ㉖ 今は何も言うことをえずと友は泣きぬ今宵別れていつまた逢はん